

人と組織の  
新・論・点

CATALYST\*

カタリスト

北川潤一郎

10万人の観客を集める全会場無料の高槻ジャズストリートの仕掛け人

自分の好きな街のため  
できることから  
まずやってみる



高槻は大阪と京都の中間にあるベッドタウンで、以前はゴールデンウィークともなると、みんな市外に出かけてしまって、街は閑散としていたんです。おもろない街やなどと思って、街を盛り上げる音楽イベントを自分たちでやろうという話になったんです。気軽に聞けるよう全会場無料にして、99年のGWに高槻ジャズストリート(JS)を始めました。それから毎年開催して、今では街の40カ所以上で、100組、1000人以上のミュージシャンが演奏し、観客も10万人を超えるまでになりました。

自分の意思で参加する  
のがボランティア

JSを運営するのは、ボランティアの方たちです。中高生から年配の方まで1000人以上が参加していて、イベントの方向性からパンフレットのデザインまですべて多数決で決めます。やりたいことがあれば意見を出すのがルールです。一昨年からはジャズバンドを乗せた無料バスを市内に走らせ始めたのですが、

これは高校生の意見でした。

ボランティアはよく無償労働と訳されますが、言われたことを無償でやることではないんです。自分がやりたいという意思があるから参加するのが基本で、何をすればいい？ではない。高槻やJSが好きという気持ちがあって、好きだから良くするためにできることを考え行動する。そうやって皆が少しずつ出した力がJSを作ってきました。

こうした状況を見てきて、僕自身JS以外にも高槻の街を良くする活動をできないかと考え始めたんです。そこで高槻まちづくり株式会社(まち株)を設立しました。まち株は、環境保全のため淀川の葦を使った名刺を販売し、そこで得た収益を元に、街を良くする活動をしています。

例えば昨年の総選挙のときに、大阪10区の公開討論会を開催しました。候補者の意見の違いが分からないと言うけれど、だったら聞いてみればいいと思ったからです。3000枚のチラシを作り後は口コミで情報を流し、かかった費用はわずか10万円。それでも当日は600

人以上の参加があって、平均40%だった投票率は70%を超えました。

他にも、商店街を車が走るの危険なので通行止めにしたかどうかと交通社会実験をしました。行政は予算がないから実験ができないと言うので、自分たちで1週間朝7時から夜7時まで、100カ所で定点調査をしてみました。それには人手がいるのですが、商店街の人に「手伝って」と声をかけたら144人も人が参加してくれたのです。

すべて他人事ではなく  
自分事と受け止める

大切なのは、こうした活動に関わった人が、自分たちでやろうと思えばできると気付くことなんです。行政を批判したり他人に期待しても何の解決にもなりません。JSやまち株の活動を通じて、身の回りのことが他人事ではなく、自分事として受け止めるようになること、そして自分の住む街を良くするために、できることからやってみようとする気持ちが生まれることが、まちづくりの第一歩だと考えています。

文/内田美代子(編集部)

PROFILE きたがわ・じゅんいちろう

1966年長崎県生まれ。小学生の時に高槻市に引越し高槻市民となる。リーガロイヤルホテル勤務の後、高槻市内にバーを開業。現在は8店の飲食店を経営する。99年に高槻ジャズストリートを仲間とともに開催、それ以来実行委員のメンバーとしてJS運営に携わる。2005年、高槻まちづくり株式会社を立ち上げ、代表取締役社長に就任。